

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170200267		
法人名	株式会社 バリアフリーLife		
事業所名	グループホームひだまり		
所在地	佐賀県唐津市佐志1146-11		
自己評価作成日	平成 31年 3月 13日	評価結果市町村受理日	令和1年5月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaikokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成 31年 3月 29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

会社の理念であります「寄り添い」の元、お客様に合わせた介護を実践し本人様に合わせ穏やかな時間を過ごして頂ける環境作りにも努めております。また、ご家族様、ご友人様のご面会も多く、誕生日会や行事等への参加も多くあっております。施設だけではなく外へ出かける日も多く取り入れ、また違う雰囲気を感じて頂いております。アットホームな雰囲気の中、お客様に御自宅と想って頂けるような空間を目指しております。地域への行事も積極的に参加させて頂き、地域の皆様への貢献やお客様と一緒に参加して頂けるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな山間部の高台に位置し、ホーム内の大きな窓からは海が一望できるつくりとなっている。共用ホールや居室は日当たり良好で明るく、季節の花や緑が楽しめる工夫がなされている。また、不快な臭いを感じられず、入居者にとって居心地の良い空間となっている。「寄り添い」を理念に掲げ、個別の対応や入居者一人ひとりの人格を尊重した支援を心がけている。協力医療機関とは24時間での協力体制が整えられており、入居者および家族の安心へと繋がっている。職員のライフステージの変化に合わせて働きやすい環境となるよう配慮されており、勤続年数の長い職員も多い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を最も重要と位置づけ取り組んでいる。その人らしく毎日を過ごして頂くために事業所会議内で事例を出しディスカッションしている。	ホール内の職員が見える位置に理念を掲示し、毎日確認している。また、管理者と職員の話し合いのもと、事業所の年間目標を決め、目標が達成できているか、定期的に評価する機会を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	笑顔で元気よく挨拶を行うように心がけている。地域のゴミステーションは他の事業所の方と協力し清掃行ったり地域全体での清掃活動やお祭り等行事に参加するよう心がけている。	近隣にある他の事業所と協力し、ゴミステーションの清掃を行ったり、地域で行われる清掃活動に参加している。地域のボランティアグループの受け入れも積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での老人会や運営推進会議を通じて介護分野等を間接的にはあるが支援している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回開催の会議には、ご家族様参加のお誘いを行い1人でも多くの意見を聞ける場を設けている。施設への要望やご意見等を頂きサービスの向上につなげている。	運営推進会議は同法人の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で2ヶ月に1回開催している。区長、家族代表、介護相談員、行政担当者等が参加し、取り組みについての報告や地域の情報収集を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の入居状況を報告したり、運営推進会議にも参加して頂き、連携をとっている。	毎月入居状況の報告を行っており、市町村担当者から随時空室状況についての問い合わせもある。運営推進会議にも参加しており、何かあればすぐに相談できる関係性が構築できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、施錠等行っていない。自由に外へ行かれるような体制を取っている。お客様の行きたい所へ制限する事なく職員が同行して外出して頂いている。また、身体拘束防止に関する話し合いを運営推進会議や事業所会議にて話し合いしている。	玄関の施錠はせず、自由に出入りできる環境をつくっている。機械類に頼らないという法人代表者の方針のもと、センサーマット等は使用せず、こまめに巡回するなどして安全性の確保に努めている。職員の言葉遣いについて事業所会議で話し合うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内、事業所内での研修で各職員がしっかり学び、もしかしたら身近にあるかもしれないという意識で業務に取り組んでいる。会議等での話し合いの場を持ち意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や社内での勉強会を行っている。参加出来なかった者には、研修報告などを行い、確実に知識の共有化を図り、職員の知識向上につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	お客様、ご家族様が納得して頂けるまで、説明の時間時間をとり誤解や不安が残らないよう取り組んでいる。お客様に疑問点等を問いかける事を必ず行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等を意見の交換の場としたり、苦情対応のマニュアルの整備を行い、第三者機関の連絡担当部署なども明記し事あるごとに紹介している。ご家族様にアンケートを出し、日ごろのサービスに対する思いを聞き、それらに返答をだしている。	毎月家族に、日頃の状況報告や行事等の様子についてのお便りを送付し、面会時には意見や要望を聞いている。また、家族を対象にサービスについてのアンケートを実施し、集計結果を文書にて報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所、所長主任の会議から職員の意見を聞いている。定期的に職員と面談を行い、対話する時間を作り相談しやすい環境作りを作れている。	事業所会議では、職員全員が意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。また、法人代表者との個人面談を定期的に行っており、相談しやすい環境がつけられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談の時間や臨時的な面談等にて職員の環境の変化を考慮し出来る限りの条件を検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の新人研修から教育を開始し個々の力量を測りながら研修、勉強会に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地域の他事業所の運営推進会議や行事に参加し交流したり、病院主催の勉強会などにも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問で関係作りを行っている。お客様の過去を知る事によりコミュニケーションを深め本人様の不安やストレスを少なくするような環境作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問、電話、文章などにより関係性を深めるようにしている。毎月お手紙をご家族様へ郵送しその月ごとの様子や状態の変化等を報告させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	細かい確認を取りながら必要に応じた援助を見極め対応行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様を人生の先輩として尊敬の気持ちを忘れずに、お客様のしたい事が何なのかという観点からサービスを提供するよう心がけ、ドライブやリクエストメニューなどお客様の意見を取り入れるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護の二面性を十分に理解しご家族様の負担や思い、お客様の生活を思いの両面を意識し最良の支援方法を一緒に相談し決定していくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や知人などいつでも面会できるようにしている。また地元の老人会のイベントへお連れしたり、故郷や好んで行かれていた場所にお連れして支援している。	親戚や知人などが面会に来られた時には、ゆっくり過ごしてもらえよう配慮している。家族から情報収集し、入居者の故郷の同窓会や敬老会に職員が同行し、一緒に参加している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の関係に常に目を配り、時にはクッションに、時には通訳などになり一人一人が楽しく生活できるよう援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合には定期的に面会に行ったり、お亡くなりになられた場合でも、法要や初盆参りに行き、継続的なケアや関係作りに努め、イベント時には声をかけ、気軽に立ち寄って頂けるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のおやつ時の飲み物の聞き取りから、誕生会での誕生者のリクエストメニューなど、こまめに意向を確認するようにしている。難しい場合は、ご本人に喜んでもらえることが何か家族様に相談したりしている。	入居者に聞き取りを行ったり、日常の会話の中から意向を汲み取れるよう努めている。意思確認が困難な入居者については、日頃のケアの中で表情を観察したり、家族に相談して意向を確認するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前にカンファレンス等を通しお客様を徹底して知るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の定期的なバイタル測定、毎月の事業所会議でのカンファレンス、定期的な現場と計画作成担当者とのモニタリングや専門医の受診など、多くの視点から総合的に把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議等にてよく話し合いプランニングしている。ご家族様だけでなく主治医や専門医にも意見、要望を聞き取り再度見直ししている。	計画作成担当者が実際に入浴介助や移乗介助等に携わり、職員の意見を聞きながらアセスメントを行っている。入居者と家族の意向や、主治医の意見を反映した介護計画を作成し、事業所会議で内容を共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	熱計表や排泄表を使用し、変化がわかるように可視化しており、より細かい気付きなどは支援経過に細かく書くようにしている。また、気付きは朝礼や事業所会議の場で報告し共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物に行きたい。散歩、外出に行きたい等の要望に応じて柔軟な援助を行っている。ご家族様の要望には施設内で話し合い柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問看護や訪問歯科などの医療的な資源から訪問美容や慰問ボランティアなどの民間的な資源を活用し、心身の健康に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様のかかりつけ医を継続し、定期的な往診や受診をしている。協力医療機関とは、24時間体制で契約をしている。	現在の入居者は、ホームの協力医療機関がかかりつけ医となっているが、希望があれば他のかかりつけ医の継続にも対応している。また、他科受診時にも職員が同行するなど、医療との連携に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな気づきでも看護師へ報告し、それを社内の看護師間で相談し助言をもらったり、主治医に連絡を取り指示を仰ぐようにして、適切なケアが受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護サマリーを提供し、治療に集中できるよう情報提供に努めている。入院中は面会をこまめに行い、認知症悪化予防に努めるだけでなく、看護師さんとのこまめな情報交換に努めている。退院時は先生からのムンテラの機会を作って頂くだけでなく、病棟の看護師さんにも入院中の状態を聞き取りして、再発防止や安全に暮らせるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアに対する指針を作成するとともに、必要に応じながらご家族様とだけでなく、主治医を交えて意見交換し、ターミナルケアを施設で迎える事ができることを伝えたくて、その都度ご家族様の迷いや考えを確認するようにしている。	入居時にターミナルケアについての指針を説明し、終末期に対する本人や家族の意向を確認している。ターミナルケアの開始時には主治医や家族との話し合いで意向を共有し、居室の環境を本人の自宅環境に近づけたら、家族が宿泊できる配慮をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルの整備や社内研修などにより全職員が対応できるように訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同地域の他事業所での訓練に参加したり、自分たちでも日頃から夜間を想定し、訓練をしている。	夜間帯の火災を想定した避難訓練を年に2回実施しており、うち1回は消防署に立会いを要請している。夜勤専門の職員や地域の消防団の参加についても検討中であるが、実現までには至っていない。	夜勤専門の職員が訓練に参加できるよう調整し、地域の消防団にホームの中や立地状況を確認してもらう事で、災害発生時におけるさらなる協力体制の強化に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人一人が人生の先輩として尊敬し又お客様として人格を尊重し関わっている。排泄の声かけ等小声で行い、トイレ誘導後ドアの外で待つなど配慮している。	入居者の人格を尊重し、基本的に敬語を使用する事としている。入居者と職員が馴れ合いの関係になり過ぎないように、事業所会議等で立ち戻る機会を作っている。入浴時にはタオルで肌を隠すなど、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつ時の飲み物などのささいな事から、本人に希望を聞くように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のやり易さではなく、お客様の希望に合わせるようにしている。本人のやりたい事を優先し、自由に居室で過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様の希望に合わせた化粧、髪型、服装をして頂き、自分で難しい所は介助している。理美容は、訪問美容を受け入れているがご希望であれば希望される美容室へお連れする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付け等もお客様と職員が一緒になって楽しみながら行っている。リクエストメニューなども取り入れている。	準備や後片付けを入居者と一緒に行っている。基本の献立は法人栄養士が作成するが、入居者のリクエストや季節の食材を独自に提供する事もある。天候が良い日にはテラスで昼食をとる等、食事を楽しむ支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事摂取量を記録し情報を共有し個々のケアにつなげている。個々のその時々々の状態に合わせて形態や時間等、検討しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがい、歯磨きを行っている。義歯は定期的に消毒、舌ブラシ、歯ブラシについても個々に合わせ使いわけるようにしている。義歯のない方に関しても、こまめに口腔ケア用スポンジを使い、乾燥しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し失敗を防ぎ、日中は出来るだけトイレで排泄して頂くよう取り組んでいる。	排泄チェック表を活用し、尿意や便意がある様子が見受けられた場合は適宜トイレに誘導するなど、なるべくトイレで排泄できるよう支援している。オムツの方の排便が確認できた場合は、その都度交換している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜の摂取を多くする為、温野菜にするなど工夫している。乳製品の摂取、勉強会等にて排泄メカニズムや対策等の知識向上に努めている。日常生活の中で適度な運動により自然排泄につながるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご希望があればいつでも入浴できるようにしている。中々入浴に積極的な方が少なく声かけの工夫をしている。	週に2～3回の入浴を基本とするが、希望があればいつでも入浴できるよう支援している。入浴の拒否がある入居者については、同性介助を行ったり、時間を置いて誘導するなど、個別に支援する。足浴や清拭も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も声かけを行うなどし、一人一人の状況に合わせて休憩していただいたりしている。就寝もご自由な時間に出来るようにしている。室温、湿度の管理。使い慣れた毛布なども持ち込んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お客様の薬の効果を知り医師の指示通りに内服できるように支援している。また、事業所会議などのカンファレンス時にお薬が合っているかのカンファレンスを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみだけでなく、計算問題や創作活動など個々に合わせて、やりがいを持って生活して頂けるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別ドライブ、全体ドライブなど、計画的に行っている。その日の天候や体調にあわせて外出を心がけている。また、馴染みの地域との交流の場にも送ったりしている。	お花見など、ホーム全体での外出行事の他、入居者の希望に合わせて個別に外出支援を行っている。入居者の故郷や馴染みの場所に向くことで、知人や地域との交流の機会となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があった場合、家族様と相談しながら対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙など希望時は、自由に利用できるように対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆとりある物の配置をし、陽をしっかりと取り入れ温かく、そしてほっとする雰囲気作りに配慮している。施設内には、常に季節の花を飾っている。	共用ホールは日当たりも良く、窓からは海が見え居心地の良い空間となっている。玄関やホールには季節の花や創作品が飾られており、目で楽しめる工夫もなされている。トイレ付近も不快な臭いが感じられず、温度管理により快適に過ごせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具の配置を工夫し、数人で楽しめる空間を作ったり個人でゆったりとした時間を過ごせる場所を作るなどしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、人形など生活用品を自由に持ち込んでいただきその人らしい部屋作りをしている。	居室の窓からは海が眺められるよう配置されている。居室は使い慣れた家具や物品を自由に持ち込む事ができ、使いやすい配置にする事で入居者本人が居心地よく過ごせる工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計にて自立援助を支援し、ご家族様からの情報やお客様の希望をしっかりと受け入れ工夫につなげている。		